

2019 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	武田 春子
研究テーマ	『万葉集』 卷第十九における橘諸兄とその周辺の歌について
研究概要	<p>『万葉集』 卷第十九の歌群において、橘諸兄は聖武太上天皇を中心とした肆宴の場で歌を詠んでいるが、そこには橘諸兄の聖武太上天皇に対する忠誠と君臣和楽の姿があり、大伴家持の歌をこの歌群の最後に置くことによってこの歌群は、聖武太上天皇・橘諸兄・大伴家持という結び付きがある。</p> <p>また、『万葉集』 卷第十七・卷第十八巻の歌群において、橘諸兄は元正太上天皇を中心とした肆宴及び遊宴の場で歌を詠んでおり、それらの歌群でも大伴家持の歌が最後に置かれていることから、元正太上天皇・聖武太上天皇・橘諸兄・大伴家持という結び付きをこれらの歌群から読み取れるのではないだろうか。</p>

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>『万葉集』 卷第十九における橘諸兄とその周辺の歌について研究してきたが、該当歌群が詠まれた時期、史実の諸兄は政界において、絶対的権力を持つ左大臣では無くなりつつあった。だが、『万葉集』における諸兄の姿は、肆宴・宴席の場の歌群においては上皇や官人達と君臣和楽を体現して歌を詠み、息子である橘奈良麻呂の宴席の場の歌群においても、自身は歌を詠まないが宴席の場を提供するという姿を見せており、後年の奈良麻呂の悲劇も含めるとしても史実の影を一切感じさせないように歌が配列された上で歌群として構成されているのである。</p> <p>そこには、大伴家持の諸兄への長年における絶対的な忠誠があり、史実においては何が起きても家持と諸兄は深く結び付いていたといえるのである。</p>
2. 今後の課題	<p>『万葉集』 卷第十九における橘諸兄とその周辺の歌についてであるが、先行研究が少ない為本来は自身の研究に独自性を持たせることが十分可能であるはずだが、先行研究に引きずられてしまいそこから脱却が困難であった為、再度自身の研究の独自性を深めることが今後の課題である。</p>